

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25463479

研究課題名(和文) 小児慢性疾患思春期患者のセルフマネジメント支援を行う看護師の教育プログラム開発

研究課題名(英文) Development of educational program for nurses who support to adolescent patients with pediatric chronic diseases

研究代表者

野間口 千香穂 (Nomaguchi, Chikaho)

宮崎大学・医学部・教授

研究者番号：40237871

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、研究者が開発した小児慢性疾患思春期患者のセルフマネジメント支援プログラムのトランジション・ケアとしての展開を目指すために、臨床で実践する看護師のための教育プログラムを開発することである。1)米国における小児慢性思春期患者のトランジション・ケアの提供システムと人材育成について把握するために現状視察と2)小児慢性疾患思春期患者のケアにあたる看護職と小児看護専門看護師に対するヒアリングの結果を統合して、小児慢性疾患思春期患者のセルフマネジメントの発達に関する知識獲得と支援プログラムに用いるスキル・トレーニングの演習、そして支援の際に活用するリソースを含む教育プログラム案を開発した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop of a educational program for pediatric nurses who support to adolescent patients with pediatric chronic diseases. Data were collected though visiting to pediatric hospital and discussion with some nurse practitioners and some medical doctors about transition-care in USA. And then, nurses and pediatric nursing certified nurse specialists were interviewed about current situation and difficulties to support for adolescent patients with pediatric chronic diseases in Japan. Based on the information obtained from these, a educational program for pediatric nurses who support to self-management of adolescent patients with pediatric chronic diseases was developed. This educational program consists of two major parts, lecture of a body of knowledge about self-management of adolescent with chronic disease and group discussion about important nursing skill of carrying out the skill training session.

研究分野：小児看護学

キーワード：小児慢性疾患 思春期 セルフマネジメント支援 トランジション・ケア 看護師教育プログラム 国際情報交換

### 1. 研究開始当初の背景

子どものセルフマネジメントの概念は発達の側面を有し、思春期では自立にむけてセルフマネジメントの責任を引き受けていくことが含まれる。そして、思春期のセルフマネジメント支援の方法論的検討はほとんどなされていないため、研究者は思春期のセルフマネジメント支援プログラムを開発し、実証的研究を行って、その有用性を確認した。

日本では成人期まで小児慢性疾患を持ち越すいわゆるキャリアオーバー患者に対する小児医療から成人医療への医療移行の課題や成人期へと移行する思春期の看護の重要性が指摘されているが、欧米のように思春期患者の発達の移行と医療移行を支援するトランジション・ケアの体制は十分ではない。また、思春期の看護実践に困難を感じる看護師は多い現状の中、思春期患者のセルフマネジメントを支援する看護師のための教育に関する系統的な検討もなされていない。

研究者が開発したセルフマネジメント支援プログラムでは、小児慢性思春期患者のセルフマネジメント履行に影響する要素として、ケア提供者との交渉であり、交渉スキルに焦点を当てたスキル・トレーニングを含んだプログラムとなっている。このような介入は看護実践として広く実施されていないため、看護師の思春期患者の看護の困難状況を把握するとともに、トランジション・ケアとしての展開を目指した教育プログラムの開発が必要である。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、小児慢性疾患思春期患者のセルフマネジメント支援プログラムのトランジション・ケアとしての展開を目指すために、臨床で実践する看護師のための教育プログラムを開発することである。

### 3. 研究の方法

以下の方法を用いて、教育プログラムを開発する。

1) 米国における小児慢性疾患患者のトランジション・ケアの提供システムと人材育成について把握するために現状視察を行う。

視察の目的は、次の2つである。トランジション・ケアの提供システムの実態を把握する。その中での看護師の役割とスキルアップのための育成の情報を得る。

2) 小児慢性疾患患者のケアにあたる看護職に対して、インタビューを行う。

インタビューの目的は、次の2つである。医療移行支援の実態と発達を支えるためのケアの現状を把握する。小児のセルフマネジメント支援に対する看護師の意識や困難等を把握する。

3) 1) 2) の結果から、思春期の移行を支援する看護師に必要な知識とスキルを明ら

かにし、それらを獲得するための学習方法を検討し、教育プログラムを作成する。

### 4. 研究成果

1) 北米におけるトランジション・ケアの現状視察

米国での現状視察は、(1)フィラデルフィア小児病院 (Children's Hospital of Philadelphia; CHOP) と(2)国立小児医療センター (Children's National Medicine Center: CNMC) の2つの施設の視察、ならびに担当者との意見交換を行った。

(1) Children's Hospital of Philadelphia; CHOP

主要な診療科の医師ならびにナースプラクティショナー (NP) によるトランジション・ケアの実際と課題について、またサテライト施設における10代ホームレス支援、循環器センターでの成人期移行期支援に関する実践と人材育成について情報を得るとともに視察を行った。主な内容は以下のとおりである。

Sickle Cell Disease 児の移行期ケアの実際とナースコーディネータの役割について

思春期医学分野で対応している移行期にある子どもと親への医療について

思春期病棟における移行期ケアのプログラム REACH について

1型糖尿病児の移行期ケアの課題と研究の動向について

喘息患児に対する教育的アプローチと移行期ケアについて

CHOP の看護師と高度専門看護師の状況と教育計画について

10代ホームレスのための CHOP による Community-based の健康支援について

がんの子どもの移行期およびがん経験者とその研究について

心臓移植を受ける子どもの移行期ケアの実際について

入院している21歳以上の患者に対する移行期ケアの実際について

(2) Children's National Medicine Center: CNMC

NP による外来看護実践の見学と血液科の NP による移行期支援の実際、ならびに院内外での看護師教育について担当者からのレクチャーを受けた。

Headaches に関する講義および NP による Neurology Clinic (Headaches) の診療の見学と討議

Sickle Cell Disease 児の移行期ケアと血友病患児の移行期ケアの実際について

NP の教育と研究支援、および NP の役割と実践について

Children's National Medical Center における看護師教育と看護研究支援体制について

(3) 上記の現状視察のまとめ

2 施設の現状視察によって、米国での現状と日本国内における課題として、以下のことが明らかになった。

#### <自立に向けた支援のあり方の現状>

米国では、小児医療から成人医療への移行期支援として、「Got Transition」によってインターネット上で提供されている枠組みを用いて、レジネシアセスメントと実践、評価のためのツールが移行期支援において活用されている。

米国では、小児医療から成人医療への移行がスムーズにいくように子どもや家族がセルフマネジメントできるように、病気や治療の経過を記録する、発達段階での課題について自分で評価することができるようなケア・バインダーを作成するための記録用紙等を子どもと家族に病院で提供している。

ケア・バインダーは、定期受診するとき、担当医が変わったとき、他の専門医を受診するときなどに子どもや家族が状況を説明したり、記録したりするために活用されている。

子どもの各発達段階に応じた子ども向け、家族向けそれぞれのリーフレットが用意され、子どもの療養行動の自立に向けた子ども自身の課題、親の子どもへの支援行動のガイドが示されている。

病院のホームページには、患者のインタビューの動画などが掲載されており、同じような状況での子どもの体験や家族の体験を知ることができるリソースが提供されている。

トランジション・ケアにおける移行期のケアの主要なポイントは繰り返し少しずつ説明すること、成人医療に移行する前に成人医療を提供するスタッフとの関係性が築ける機会があること、自分で受診のアポイントをとれるように支援すること、移行した後のフォローをする機会を設けることであった。

#### <看護師のスキルアップのための体制>

米国は、看護師免許を更新するためには、セミナーや学会参加が義務付けられているため、研究を支援する部署やシミュレーション教育する部署、EBP を支援するための部署があり、各病棟で Educator としての役割をとる看護師の配置されていた。

移行期支援や小児慢性疾患の子どもへのセルフマネジメントを支援するためのスキルアップのためのプログラムが用意されているわけではなかった。

病院で、移行のための支援の実践を中心に行っている看護師は Nurse Practitioner, NP であった。

疾患によっては、その疾患に関連した専門の学会で、子どもの支援に関するセミナーが開催されるため、それに参加することを

していた。

2) 国内での看護職に対するヒアリング調査研究進行中の平成 27 年に児童福祉法が改正され、小児慢性特定疾病児童等の自立支援事業が展開されるようになった。そのため、小児看護学会ならびに自立支援事業としてのケアに取り組む交流会に参加する看護師および小児看護専門看護師に対して、自立支援・移行期支援、セルフマネジメント支援の現状と課題、学習ニーズに関するヒアリングを行った。その結果、次のような現状と学習ニーズが明らかとなった。

小児慢性疾患の子どもへの自立に向けた支援は重要であると認識していた。その中で、思春期の支援において、子どもの自立に向けて、セルフマネジメント支援を実施することは重要であると考えている。

対象となる患者は、外来通院をしていることが多く、外来患者を対象として実施するために外来看護師やそのための時間を割くことが難しく、医師との協働や看護管理者の理解が必要である。

外来での介入のタイミングをどのようにすればいいかわからない。

思春期だけではなく、幼児期から、あるいは発症の時から思春期のセルフマネジメントができるように自立を目指したケアをしていく必要がある。

思春期患者は、病状の変化や明らかな課題を抱えていないと支援する機会を持ちにくく、コミュニケーションの難しさを感じることがある。

小児慢性疾患の場合は、子どもに対する家族の対応が自立に影響するため、親へのかかわりが難しいとともに家族の支援も必要である。

3) セルフマネジメント支援プログラムの実行可能性と課題からの教育プログラムの検討

日本国内には、小児医療から成人医療へとスムーズに移行できるように支援するためのガイドが存在するが、移行期という時期に焦点が当たっており、小児期を通して支援するため子どもと家族向けのためのリソースも支援する看護師のためのリソースも整っていないため、活用できるリソースが必要である。

小児期は発達段階に対応した課題があり、スムーズに小児医療から成人医療への移行を促すためには、子どもの自立に向けて小児期を通じた支援が必要である。そのための支援のひとつの方法として、セルフマネジメント支援は有用であり、トランジション・ケアに組み入れることが可能であり、米国で活用されていたレジネシアセスメントの内容が介入を検討する指標として用できると考えられる。

看護師の教育においては、支援する看護師

が活用できるリソースを提供することが必要である。米国とは異なる教育体制であることや NP は非常に少ないため、小児看護専門看護師と協働することや参加しやすいセミナーや勉強会の開催、ならびにそのことの有用性の病院看護部での理解が必要である。

思春期患者とのコミュニケーションスキル向上のための要素が含まれる必要がある。

#### 4) 小児慢性疾患思春期患者のセルフマネジメント支援を行う看護師のための教育プログラム

看護師のための教育プログラムは、思春期を中心としたセルフマネジメント支援だけではなく、小児期を通じた自立支援の中での思春期の支援の方法としてのひとつとして位置付けることが、現状に即している。それによって、トランジション・ケアとしての展開が可能となる。そのため、教育プログラムの内容と骨子は下記のとおりとした。

##### (1) セルフマネジメント支援プログラムに必要な知識のための情報提供

小児用に作成しているブックレットを用いて、小児慢性疾患思春期患者のセルフマネジメントの要素とその発達の様相を理解する。

支援プログラムに用いている交渉スキル・トレーニングの方法を理解する。

##### (2) 交渉スキル・トレーニングの運用についての演習

交渉スキル・トレーニングに用いる場面を活用して、学習に参加する看護師でグループ討議を行う。特に 10 代前半にある思春期患者の特性にあったスキルを目指した下記のポイントを理解し、スキル獲得を目標とする。

思春期患者を対象とした交渉スキル・トレーニングのポイント

思春期患者の学習時の反応の特徴とその捉え方のポイント

思春期患者に対するフィードバックの方法のポイント

##### (3) 支援プログラムに活用するリソース

米国で活用されている小児慢性疾患の子ども向け、家族向けのパンフレットを和訳し、国内での活用ができるようにして、家族に対する支援のリソースとする。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

野間口千香穂 (NOMAGUCHI CHIKAHO)

宮崎大学・医学部・教授

研究者番号：40237871